

ビンズイ *Anthus hodgsoni* Richmond

【選定理由】

1980年代半ばまでは繁殖期に標高 1,000m 以上の井山や茶臼山などに生息して繁殖行動も観察されていたが、1980年代後半から繁殖期の生息が全く確認されなくなって、愛知県における繁殖個体群は絶滅と評価された。通過や越冬の個体群は減少しておらずリスト外と評価された。

【形態】

全長 15cm。上面は緑褐色で不明瞭な黒褐色の斑がある。眉斑と顎線および喉から下面全体は白および白っぽいバフ色に黒褐色の斑があり、脇は黄褐色味を帯びる。冬羽では下面を含め全体に黄褐色味を帯びる。



愛知県安城市, 2011年2月26日, 杉山時雄 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

繁殖期に生息が確認されていたのは標高 1,000m 以上の井山や茶臼山などで、1980年代半ばまでは確認されている。渡りの季節は県内のほぼ全域で見られ、冬期は県内の山地や平地、沿岸部や島嶼などで局所的に越冬する。

【国内の分布】

四国以北で繁殖し、本州中部以南では標高 1,000m 以上で、東北以北では平地でも繁殖する。東北以北では主に夏鳥あるいは旅鳥で、本州中部以南では主に旅鳥あるいは冬鳥。

【世界の分布】

ロシア中南部および中国東部からヒマラヤまでのユーラシア大陸および千島から日本までの列島で繁殖して、冬期はアジアの中部から南部で越冬する。

【生息地の環境／生態的特性】

県内の繁殖地は、標高 1,000m 以上の高原にある牧場などで、周辺に疎林のある環境。越冬地の環境は、作物の生えていない農地。面積の広い社寺や公園で、裸地や草が疎らに生える環境を好む。渡りの季節は昼間だけでなく、曇天の夜間でも上空を移動する。上空を 1羽から数羽で移動するが、「ゾーッ」と鳴きながら通過するので、声の識別ができれば確認は容易である。尾を上下に振り、歩きながら地面で採餌する。松の生えた環境を好み、太い松の横枝の上を歩くのが特徴である。

【現在の生息状況／減少の要因】

近年は県内で繁殖期の観察記録がなく、茶臼山では長野県側でも同様に繁殖期の生息が確認されなくなった。要因として地球温暖化や観光開発などによる影響が考えられるが、繁殖地の牧畜業が衰退して、放牧される家畜がいなくなると共に、繁殖期の本種も姿を消している。牧場で家畜の排せつ物等に依存する昆虫なども、本種の繁殖には必要であったものと推測される。

【保全上の留意点】

それ程古くない過去に原生林が開墾されて牧畜がはじまり、その環境に適応して繁栄した野鳥は少なくない。欧州型牧場の環境は日本では主に標高の高い山地や東北、北海道で、明治時代から作られた環境であり、僅かながら愛知県にも存在している環境である。本種をはじめ同様の環境で絶滅の危機に瀕している種の復活には、牧畜産業の再振興が不可欠であるのかもしれない。

【特記事項】

同様の環境から繁殖期の生息が消失あるいは減少している種は数多いが、愛知県では、野鳥観察が一般的になった 1970年代以降で、最も早い時期にその環境から姿を消した野鳥が本種である。

【関連文献】

五百澤日丸・山形則男・吉野俊幸, 2014. 新訂 日本の鳥 550 山野の鳥, p.322. 文一総合出版, 東京.

(高橋伸夫)